

令和3年度 京都府立福知山高等学校附属中学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>府民の期待に応える学校づくりの推進</p> <p>1 「個を活かし、公に生きる」人間の育成</p> <p>2 「グローバルに活躍する」人間の育成</p> <p>3 感じる力、考える力、行動する力、向上する力、関わる力（5K力）の育成</p> <p>4 バランス感覚のある総合的な人間力の育成</p>	<p>（成果）</p> <p>1 少人数授業を実施し、きめ細かな指導を通して、学力の向上を図ることで、学力推移調査の結果に結び付けることができた。また、主体的な学びの育成に向け、タブレットPC等の活用を進めるとともに、オンライン学活を実施したり、行事の動画配信を行うなど、ICT活用を積極的に行えた。</p> <p>2 総合的な学習の時間「みらい楽」では、地域理解を深める観点から社会の抱える課題の解決に向けての取組など、実際に、企業や行政に要望や提案をするなど主体的に地域や社会と関わり、発信しながら学びを深めることができた。さらに、下級生への報告会も実施し、着眼点や手法等を伝えることができた。</p> <p>3 部活動加入率は高く、高校と連携しながら活動した。その成果として、夏の公式試合では多くの部活動で3位以内で表彰される結果を残した。また、中学の部活動引退後も切れ目なく高校の部活動で活動するなど、6年間を見通した部活動運営ができた。生徒会活動においても、中学校独自の行事等を生徒が積極的に運営した。</p> <p>4 長期休業中の三者面談や日常的な家庭との連携を丁寧に行うことで、信頼関係を築くことができた。</p> <p>5 学校説明会や「附属中だより」、中学生の活躍を母校に報告するなど、生徒の様子を小学校に発信することができた。</p> <p>（課題）</p> <p>1 附属中1期生の高校卒業により、6年間を見通した中高一貫教育を総括し、より充実させる。</p> <p>2 中高一体となった校内組織を確立するため、中高教員による教科や分掌等による担当者会議をより積極的に行っていく。</p> <p>3 福高生から中学生へ話す機会を積極的に設けるなど、中高一貫教育校ならではのコラボを充実させる。</p> <p>4 中高、各分掌、各教科間でのOJTをさらに推進し、教職員の働き方改革を進めることで、同僚性や協働性を高め子どもたちに豊かな教育ができるようにする。</p>	<p>1 中高一貫教育の推進</p> <p>(1) 中高間及び分掌間の連携を図るとともに、中高一体となった校内組織を確立する。</p> <p>(2) 中高6年間で育む資質・能力を意識した中学3年間の指導の充実を図る。</p> <p>(3) 生徒の発達段階に応じたきめ細かで、組織的な生徒指導体制を確立する。</p> <p>2 一人一人の学力の向上</p> <p>(1) 少人数授業等のきめ細かな指導を通して、基礎的・基本的な学力の定着を徹底するとともに、わかる喜びを実感させる。</p> <p>(2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行い、思考力、判断力、表現力を育成する。</p> <p>(3) ICTを効果的に活用した授業改善を推進する。</p> <p>(4) 総合的な学習の時間「みらい楽」や体験活動を通して、探究する楽しさを実感させ、主体的に学ぶ姿勢を育むとともに、社会や地域の課題解決に主体的に取り組む姿勢を養う。</p> <p>3 「福高コラボ」の推進</p> <p>高校生との交流や協働活動を通して、異年齢との関わりから学び、刺激を受け、成長できるような、中高一貫教育校ならではのコラボを実施する。</p> <p>4 健やかな身体と豊かな人間性の育成</p> <p>学級活動や学校行事、部活動等を通して、心身を鍛えるとともに、仲間づくりの大切さに気づかせ、人権意識や規範意識、思いやりの心を育む。</p> <p>5 学校組織の改善と見直し</p> <p>教職員の資質・能力の向上と、学校全体の教育力向上のため、中高、各分掌、各教科の在り方を含めた業務改善と効率化を図る。</p> <p>6 適正な学校運営と安心・安全な学校づくり</p> <p>全教職員が危機管理意識や防災意識を持ち、日々の点検に努め、適正な学校運営にあたる。学校防災や感染症対応など、生徒・保護者・教職員が共通認識をもつことにより、危機管理体制を確立し、安心・安全な学校を作る。</p> <p>7 家庭・地域・関係機関との連携の強化</p> <p>(1) 積極的に家庭連絡・家庭訪問を行うなど、家庭との連携を密にして信頼関係を築く。</p> <p>(2) 地域学習や地域連携活動等を通して、積極的に地域と関わろうとする姿勢と行動力を育む。</p>

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価		成果と課題																
組織・運営	<p>【 6年間を見通した教育の充実 】 附属中1期生の高校卒業を踏まえ、6年間を見通した中高一貫教育をより充実させるとともに、中高6年間で育む資質・能力を意識した中学3年間の指導の充実を図る。</p>	<p>少人数授業やICT活用等のきめ細かな指導を通して、基礎的・基本的な学力の定着および思考力、判断力、表現力を育成し、わかる喜びを実感させる。 【 内部評価を指標とする。 】 [授業改善に組織的に取り組めたと実感した割合] <table border="1" data-bbox="831 368 1453 437"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>60%以上</td><td>59~40%</td><td>39~25%</td><td>24%以下</td></tr> </table> <hr/> 【 学校評価アンケート（生徒）を指標とする。 】 [学力向上に対する取組は十分だと思いますか。] <table border="1" data-bbox="853 531 1476 600"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>60%以上</td><td>59~40%</td><td>39~25%</td><td>24%以下</td></tr> </table> </p>	A	B	C	D	60%以上	59~40%	39~25%	24%以下	A	B	C	D	60%以上	59~40%	39~25%	24%以下	B	B	<p>【教育の充実に関わって】 ・授業改善に組織的に取り組めたと実感またはやや実感している割合は50%であった。 ・生徒が学力向上に対する取組が十分だと思っている割合は94.8%であった。 ・生徒には高評価を得ているので、授業やICT活用の研修等を通じてデータや実践内容の共有するなど、一層組織的に授業改善等に取り組んでいく必要がある。 【組織体制の確立に関わって】 ・業務改善と効率化が進んだと実感した割合は50%となった。 ・保護者が総合的に考えて、本校を魅力的な学校だと思っている割合は93.6%であった。 ・組織としての動きを高めるために、事前に協議や調整を行い、共通認識をもって進めるなど効率的に教育の質を高めていく必要がある。 【生徒募集に関わって】 ・今年度実施した入学者選抜の志願者倍率は昨年度同様1.8倍となり、3年連続2.0倍を下回った。 ・2年連続6月予定の学校説明会が実施できなかったこともあり、小学校5年生以下の児童に本校の魅力を伝えていく必要がある。</p>
	A	B	C	D																	
	60%以上	59~40%	39~25%	24%以下																	
A	B	C	D																		
60%以上	59~40%	39~25%	24%以下																		
<p>【 教職員の組織体制の確立 】 中学校のみならず学校全体の教育力向上に向け、教職員の資質・能力の向上を通じて業務改善と効率化を図る。 また、教職員の働き方改革を進めることで、豊かな教育ができるようにする。</p>	<p>教職員の資質・能力の向上と、中高間及び分掌間の連携を図るとともに、中高一体となった校内組織を確立する。 【 内部評価を指標とする。 】 [業務改善と効率化が進んだと実感した割合] <table border="1" data-bbox="831 793 1453 861"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>60%以上</td><td>59~40%</td><td>39~25%</td><td>24%以下</td></tr> </table> <hr/> 【 学校評価アンケート（保護者）を指標とする。 】 [総合的に考えて、本校は魅力的な学校だと思いますか。] <table border="1" data-bbox="831 956 1453 1024"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>60%以上</td><td>59~40%</td><td>39~25%</td><td>24%以下</td></tr> </table> </p>	A	B	C	D	60%以上	59~40%	39~25%	24%以下	A	B	C	D	60%以上	59~40%	39~25%	24%以下	B	A		
A	B	C	D																		
60%以上	59~40%	39~25%	24%以下																		
A	B	C	D																		
60%以上	59~40%	39~25%	24%以下																		
<p>【 広報活動の充実 】 本校教育活動の充実を図り、広報や生徒募集につなげていく。</p>	<p>「附属中だより」や学校説明会、ホームページ等の充実を図り、本校への理解や魅力発信につなげていく。 【募集定員に対する志願者数の割合】 <table border="1" data-bbox="842 1150 1464 1219"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>2.5倍以上</td><td>2.0倍以上</td><td>1.4倍以上</td><td>1.4倍未満</td></tr> </table> </p>	A	B	C	D	2.5倍以上	2.0倍以上	1.4倍以上	1.4倍未満	C	C										
A	B	C	D																		
2.5倍以上	2.0倍以上	1.4倍以上	1.4倍未満																		
教務部	<p>学力向上に向け、授業改善と主体的な学習態度の育成に努める。</p>	<p>学力向上のため学年と連携し、ガイダンスを積極的に実施する。優れた指導実践を共有し、生徒の学習意欲を高める指導の工夫改善につなげる。 【授業アンケート中の主体的な学習活動に関する質問に対する生徒の自己評価の平均】 <table border="1" data-bbox="842 1410 1438 1479"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>3.6以上</td><td>3.0~3.5</td><td>2.5~2.9</td><td>2.4以下</td></tr> </table> </p>	A	B	C	D	3.6以上	3.0~3.5	2.5~2.9	2.4以下	B	B	<p>新指導要領にもとづいた教育活動への移行を、共通理解を図りながら進め、今年度から、新たな3観点での評価を行うことができた。 各教科で、府の教育課程研や市の研究会に参加し、研修に努めた。</p>								
A	B	C	D																		
3.6以上	3.0~3.5	2.5~2.9	2.4以下																		

	新指導要領にもとづいて教育活動を円滑に行い、観点別評価、ICT活用を進める。	校内の全体研修を通して共通理解を図り、各教科での研究を推進して、より良い準備ができるようにする。 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>十分に検討できた</td> <td>検討できた</td> <td>あまり検討できなかった</td> <td>検討できなかった</td> </tr> </table>	A	B	C	D	十分に検討できた	検討できた	あまり検討できなかった	検討できなかった	B	また、ICT活用については、校内研修も行い、効果的な活用について考えることができた。
A	B	C	D									
十分に検討できた	検討できた	あまり検討できなかった	検討できなかった									
生徒指導部	明るく元気に挨拶を交わし身だしなみを整えることで、よりよい人間関係を築き、社会性を育む。	挨拶と身だしなみについて意識を高められるように声掛けを行う。 [アンケートで、できたと答えた割合の平均値] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70%</td> <td>69～50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	50%未満	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの結果、挨拶・身だしなみ等マナーについてのプラス評価は80.8%であった。日常的に教員からも声かけをしており、全体的に高い結果であった。しかし、学年によっては昨年度より10%以上低い値も出た。今後は、より規範意識の向上を働きかける必要がある。 ・学校評価アンケートの結果から通学マナーについてのプラス評価は63.9%であった。例年に比べると顕著に低い結果であった。また、1学期には自転車の交通事故や外部からの交通マナーの悪さを指摘していただくことが多かった。そのたびに、交通マナーの啓発をし、交通マナーの改善が図れた。次年度は、1学期に重点的に交通マナーの啓発をし、事故を未然に防ぐ必要がある。 ・生徒会執行部が計画的に活動することができず、生徒会新聞の発行部数も少なかった。しかし、今年度は初めて福中祭を実施し、附属中ならではの取組が新たにできたことはよかった。
	A	B	C	D								
	90%以上	89～70%	69～50%	50%未満								
交通安全に関わるルールの遵守やマナーの向上に向けた指導を行い、交通事故防止につとめる。	交通事故を防止するために、立ち番や学級指導などを活用して安全意識を高める。 [交通安全に関する学級及び全校での指導回数] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>8回以上</td> <td>7、6回</td> <td>5、4回</td> <td>3回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	8回以上	7、6回	5、4回	3回以下	B		
A	B	C	D									
8回以上	7、6回	5、4回	3回以下									
「行動する力」「関わる力」を始め、5つの力の育成のため、特に生徒会活動や委員会活動の活性化を図り、主体性と協調性を育む。	生徒会執行部及び各委員会で学校生活の充実に向けた取組を行う。 [中学校生徒会独自の取組回数] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>8回以上</td> <td>7、6回</td> <td>5、4回</td> <td>3回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	8回以上	7、6回	5、4回	3回以下	B		
A	B	C	D									
8回以上	7、6回	5、4回	3回以下									
進路指導部	進路意識を向上させ、夢や希望を持って高校進学に臨むように指導する。	高校進学後の展望と、大学進学、そして大学卒業後の進路の見通しを持たせる。 [進路学習後のアンケートで、高校・大学進学や将来の夢について“考えることができた”と答えた生徒の割合] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>65%以上 80%未満</td> <td>50%以上 65%未満</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	65%以上 80%未満	50%以上 65%未満	50%未満	B	<ul style="list-style-type: none"> ・70%の生徒が将来について前向きに考えることができた。今後は、6年間を見通した具体的な進路目標を考える機会を増やす必要がある。 ・「自立」した学習者を育てることを狙いとしてスタディマラ
A	B	C	D									
80%以上	65%以上 80%未満	50%以上 65%未満	50%未満									

		<p>高等学校における進路指導の実際を知り、早期から大学進学や大学進学後の就職を意識したキャリア教育を推進する。</p> <p>[大学進学を意識した進路学習の回数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6回以上</td> <td>4～5回</td> <td>2～3回</td> <td>1回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	6回以上	4～5回	2～3回	1回以下	B	B	<p>ソンを行い、学習習慣の定着を促すことができた。高校教員による文理科学科入試問題解説や文理科学科の担任の講話により高校生活への心構えを意識させることができた。進学を意識した進路学習は5回行った。外部講師による講演も主体的な学習への取組につなげることができた。</p> <p>・キャリア講演会で行った集団討論と生徒一人一人の決意表明は、職業理解と進路意識向上に役立った。</p>
A	B	C	D										
6回以上	4～5回	2～3回	1回以下										
	<p>職場体験学習などを計画し、職業観を身に付けさせるとともに将来地域社会に貢献する人材となるべき資質・能力・態度を身に付けさせる。</p>	<p>職場体験に関する様々な取組を通して、働くことの意義を考えさせる。</p> <p>[職場体験後のアンケートで、“働くことの意義を考えたことができた”と答えた生徒の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>65%以上 80%未満</td> <td>50%以上 65%未満</td> <td>50% 未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	65%以上 80%未満	50%以上 65%未満	50% 未満	—		
A	B	C	D										
80%以上	65%以上 80%未満	50%以上 65%未満	50% 未満										
保健部	<p>生徒が健やかで安心・安全な学校生活を送ることができるよう、自らの健康や安全に対する意識の向上を図る。</p>	<p>・生徒が健康で安全な学校生活を送ることができるよう、病気や怪我の予防、また、授業・部活動・登下校時の災害防止に努める。定期的に「ほけんだより」、「安全だより」を発行し、健康、安全に関する注意喚起を行う。</p> <p>・新型コロナウイルス等感染症の拡大防止のため、啓発活動、健康観察、体調不良者への対応等に全校体制で取り組むことができるよう、情報提供や提案を行う。</p> <p>・健康診断結果に基づく要治療・再検生徒の受診率の向上を目指す。</p> <p>[眼科 視力検査で最大視力がC・Dの生徒の受診率]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50%以上</td> <td>49～30%</td> <td>29～10%</td> <td>9%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	50%以上	49～30%	29～10%	9%未満	A	B	<p>・新型コロナウイルス感染症対策を中心に、健康診断や研修旅行前等、時機に応じた「ほけんだより」「安全だより」を発行することができた。1月現在で「ほけんだより」17号、「安全だより」3号まで発行済みである。</p> <p>・毎朝、検温表の回収とチェックを行い、生徒の健康状態の把握に努めた。全校協力体制の下で今後も気を緩めることなく感染症対策に取り組んでいきたい。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、検診の時期を2学期に延期した。例年夏休みに、要治療・再検生徒が受診することが多く、受診率の低下が危ぶまれたが、「ほけんだより」等で早期治療の大切さを伝えた結果、65%が受診することができた。</p> <p>・前期保健委員会では「教室の二酸化炭素濃度チェック」を行った。換気のためにどの窓をどのくらい開けるとよいか、1週間調べたことをもとに各クラスで発表し、感染症対策を行った。</p>
	A	B	C	D									
50%以上	49～30%	29～10%	9%未満										
	<p>環境教育の充実を図り、校内美化に対する意識を高め、学習環境作りに努める。</p>	<p>・教室、トイレ、廊下等、校内の清掃、また感染症予防のための消毒を確実にし、校内の衛生管理に努める。</p> <p>・保健委員による校内の衛生管理活動等を企画して行う。</p> <p>[保健委員会の年間活動回数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10回</td> <td>9～7回</td> <td>6～4回</td> <td>3回未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	10回	9～7回	6～4回	3回未満	B		
A	B	C	D										
10回	9～7回	6～4回	3回未満										

					後期保健委員会は生徒会執行部とともに、3学年縦割り掃除に取り組んだ。主体的に考え、実行に移していく委員会活動を、今後も行っていきたい。								
人権教育部	様々な人権問題についての正しい理解や認識を深め、人権尊重の実践的態度を養う。	学年部や他分掌の連携を深め、人権学習の教材や指導方法の改善に努める。 [学校評価アンケート] 保護者全員の人権学習に対するプラス評価平均 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>75%以上</td> <td>70%以上</td> <td>70%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	75%以上	70%以上	70%未満	B	B	人権教育の計画について、中学校部会で全体計画を提案し、各学年で実施について検討した。1年生では、今年度も中丹支援学校との交流会を実施し、人権学習で学んだ内容を実践につなげる機会とすることができた。 人権学習や道徳の授業、学活の中で、互いの人権を守るためにとるべき言動を考えさせたり、生活の中で自分の実際の言動を振り返らせたりする指導を行った。
	A	B	C	D									
80%以上	75%以上	70%以上	70%未満										
教職員の人権意識の高揚を図り、指導力の向上に努める。	教職員人権研修を充実させ、教職員の指導力の向上を図る。 [教職員人権研修の実施] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>0回</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3回	2回	1回	0回	A			
A	B	C	D										
3回	2回	1回	0回										
総務企画部	本校の特色ある取組や、生徒の充実した学校生活の様子を地域の方や小学生またその保護者等に正しく知ってもらえるよう広報誌(附属中だより、附属中案内)やホームページによる情報発信、各種説明会を工夫し、発展させる。また本校生等をこれまで以上に知ってもらうよう広報誌(福高タイムズ)の発行、ホームページの更新等に努める。	在校生とその保護者に本校の活動の様子をよりよく知ってもらうように、分掌内外の連携を強化し、ホームページや福高タイムズ等を媒体に積極的に情報発信することで広報に関する満足度を高める。 [学校評価アンケート(保護者用)問11「ホームページ等広報」におけるプラス評価の割合(全学年の平均値)] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>80%以上</td> <td>70%以上</td> <td>70%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	B	B	・ホームページ更新件数を昨年度よりも大幅に伸ばすことができた。また、福中タイムズを新たに刊行し、福高コラボを織り交ぜるなど工夫を凝らした紙面を掲載することができた。記事をより速やかに掲載するシステム作り及び、媒体そのものの認知度を上げることが課題である。 ・募集に関わる各種説明会等についてはコロナ渦ではあったものの、昨年同様には実施することができた。早期の意識づけを重視し、従来通り4、5年生を説明会の対象とすることに加え、今年度は附属中だよりを5年生にも配布することで変化をつけた。志願者は73名(昨年度比+1)にとどまった。 ・木曜日7時間目に定期的に部会を実施することで年間通じて情報共有を密に行うことができた。また、日常的にコミュニケーション
		A	B	C	D								
	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満									
ホームページや学校案内、広報誌(附属中だより)、小学生対象の説明会等の広報に関わる様々な取組の内容や方法を改善していくことで、本校の魅力を正しく知ってもらうよう努め、志願者の増加を目指す。 [志願者数] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80人以上</td> <td>75人以上</td> <td>70人以上</td> <td>70人未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80人以上	75人以上	70人以上	70人未満	C				
A	B	C	D										
80人以上	75人以上	70人以上	70人未満										
分掌内外の連携を密にし、高校と附属中学校の広報や生徒募集を有機的に機能させる。	部会を定期的で開催し、また日常的に部内の意思疎通を図ることで、部全体が共通認識を持ち、協力体制のもと業務に取り組んでいけるよう努める。		B										

		[分掌会議の実施回数（作業を除く）]		をとることで協力体制をとって業務を行うことができた。								
		<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>40回以上</td> <td>35回以上</td> <td>30回以上</td> <td>30回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	40回以上	35回以上	30回以上	30回未満		
A	B	C	D									
40回以上	35回以上	30回以上	30回未満									
みらい探究部	みらい楽において身につけさせたい力を明確にし、それらの力がどれぐらい身についたのか確認し、今後改善していく部分を明確にすることで、生徒が主体的に学ぶ力を高める。	みらい楽において、課題研究に必要なスキル、研究の進め方や発表の仕方、評価の方法等を工夫・改善し、より系統的で深い学びとするための学習計画を作成する。 【生徒の自己評価による達成度】	B	<ul style="list-style-type: none"> 探究学習を終えたそれぞれの学年がポスターセッションをすることを活動のゴールにするのではなく、事前に探究学習で育成を目指す資質・能力をループブックで生徒に示した上で、それらがどのくらい身についたのかを生徒が自己評価する機会を設け、次の学習への意欲や自信、また成長につながる時間となるよう努めた。自己評価が、生徒達の学習状況を把握したり、教師自身の今後の指導に活かす資料となるよう、今後も活用していく。 土曜講座については、コロナ禍において実施しなかったが、特別授業で、社会で活躍されている方の話を直接聞いたり、事例をもとに体験的に学ぶことで、新たな気づきや知的好奇心がより一層高まる機会となり、本校で取り組んでいる課題解決型学習に向かう意欲の更なる醸成につながる大変有意義な時間となった。 								
		みらい楽における探究活動を通して課題発見・解決力、情報収集力、論理的思考力、コミュニケーション力、表現力など汎用的な力の育成を目指す。 【生徒の自己評価による達成度】	B									
	土曜講座を通して、学校における授業の深化・発展や基礎補充、地域における多様な学習や体験等ができる豊かな学びの環境を提供する。	土曜講座を活用し、生徒のさらなる成長を支え、興味を持って主体的に学習に向かう力を向上させる。 【生徒の自己評価による達成度】	A									
図書視聴覚部	読書活動を推進し、5つの力を基盤とした「知識に裏付けされた判断力」「豊かな表現力」「感性を磨く力」を育成する。	豊かな読書活動を推進するために、図書委員会が図書館と学級の架け橋となるよう支援する。 学年、分掌、教科と連携し、図書館活用の機会を増やすとともに、活用内容の充実を図る。 [授業での図書館活用回数（みらい楽を除く）]	D	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動以外に4つの教科、科目での図書館活用があった。今後も教科、分掌と連携し、図書館活用の幅を広げていきたい。 [みらい楽以外の活用回数31回] 「さくら連絡網」については学校全体で効果的に活用することができた。 保護者の方に活動の様子を直接見ていただく機会がほとんどない 								
	P T A活動を推進し、保護者や府民の学校理解につなげる。	P T A活動が円滑に運営されるよう、事務局としての役割を果たす。学校行事やP T A活動について「お知らせメール（さくら連絡網）」を活用した、継続的かつ安										

		<p>定期的な情報発信を行うとともに、機能充実に努める。 〔保護者対象学校評価アンケートのPTA活動に対するプラス評価〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>70~79%</td> <td>60~69%</td> <td>60%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	70~79%	60~69%	60%未満	B	<p>まま1年が経過したが、PTA活動としては本部役員の方を中心に、熱心に取り組んでいただいた。 〔PTA活動に対するプラス評価75.1%〕</p>
A	B	C	D									
80%以上	70~79%	60~69%	60%未満									
第1学年	<p>中高一貫教育校であることを実感し、充実した学級生活が送れるような学級経営を行う。</p>	<p>高校生との交流や協働活動を充実させるとともに、生徒指導、教育相談等を適切に行い、生徒を生かす学級経営に努める。</p> <p>〔学校評価アンケートにおける「福高コラボ」に対する良い評価の割合〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%</td> <td>70%</td> <td>60%</td> <td>50%</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%	70%	60%	50%	D	<p>・中高合同での「福高祭」が実施できず、附属中のみでの「福中祭」となったため、1年生にとっては、高校生との直接的な関わりが少なく、入学前に抱いていた「福高コラボ」のイメージと異なった。 ・「みらい楽」では、地域理解を深める観点から、『地域の魅力を伝えよう！私たちの町大好きプロジェクト！』に取り組んだ。地域の特徴や魅力について、本やインターネットで調べたり、情報をもとに福知山市内を探索したりする中で、それに尽力する方々の努力や思いなどに触れ、地域の良さを知ることができた。</p>
	A	B	C	D								
80%	70%	60%	50%									
<p>総合的な学習の時間「みらい楽」を通して、他者との対話を重ね、様々な立場の考え方に触れながら、問題をよりよく解決するための資質・能力を育む。 ※1年生の重点評価項目 「集めた情報を比較・分類し整理することができたか」</p>	<p>総合的な学習の時間「みらい楽」の時間を活用し、課題解決型学習の手法を取り入れた探究学習を実施する。 〔生徒の「自己評価表」で1年生の重点評価項目において目標評価基準（B）に到達した生徒の割合〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>100%</td> <td>90%</td> <td>80%</td> <td>70%</td> </tr> </table>	A	B	C	D	100%	90%	80%	70%	B		
A	B	C	D									
100%	90%	80%	70%									
第2学年	<p>中高一貫教育校であることを実感し、充実した学級生活が送れるような学級経営を行う。</p>	<p>高校生との交流や協働活動を充実させるとともに、生徒指導、教育相談等を適切に行い、生徒を生かす学級経営に努める。</p> <p>〔学校評価アンケートにおける「福高コラボ」に対する良い評価の割合〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%</td> <td>70%</td> <td>60%</td> <td>50%</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%	70%	60%	50%	D	<p>・附属中の先輩である文理科学科の生徒と交流する機会や文理科学科の担任から卒業生の様子や附属中で頑張るべきことについて話を聞く機会を設けた。「福高コラボ」を象徴する「福高祭」が実施できなかったことから、生徒にとっては「福高コラボ」が充実しているという実感にはつながりにくかった。 ・由良川をはじめとする豊かな自然の恩恵を感じ、自然と人がともに豊かに生きる道を探る活動に取り組んだ。琵琶湖博物館や八幡堀を訪問し、豊かな水を活かした生活や町づくりを知り、由良川や由良川流域が抱える課題に活かそうと活動を進めた。</p>
	A	B	C	D								
80%	70%	60%	50%									
<p>総合的な学習の時間「みらい楽」を通して、他者との対話を重ね、様々な立場の考え方に触れながら、問題をよりよく解決するための資質・能力を育む。 ※2年生の重点評価項目 「さまざまな角度から問題をとらえ、仮説を立てて検証し、解決策を練り上げることができたか」</p>	<p>総合的な学習の時間「みらい楽」の時間を活用し、課題解決型学習の手法を取り入れた探究学習を実施する。 〔生徒の「自己評価表」で2年生の重点評価項目において目標評価基準（B）に到達した生徒の割合〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>100%</td> <td>90%</td> <td>80%</td> <td>70%</td> </tr> </table>	A	B	C	D	100%	90%	80%	70%	B		
A	B	C	D									
100%	90%	80%	70%									

第3学年	<p>中高一貫教育校であることを実感し、充実した学級生活を送れるような学級経営を行う。</p>	<p>高校生との交流や協働活動を充実させるとともに、生徒指導、教育相談等を適切に行い、生徒を生かす学級経営に努める。 [学校評価アンケートにおける「福高コラボ」に対する良い評価の割合]</p> <table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>80%</td> <td>70%</td> <td>60%</td> <td>50%</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%	70%	60%	50%	D	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季講習では、高校の教員から入試問題の解説を聞き、中学校のうちに付けるべき力や高校進学を視野に伸ばすべき力について意識をするきっかけとなった。また、web配信している「福中タイムズ」の記事として、高校の先輩との対談や中学生と附属卒業生の活躍を伝えるなど、コロナ禍でもできる「福高コラボ」に取り組んだが、直接的な触れ合いが少なかったことから、「福高コラボ」の実感にはつながりにくかった。 ・研修旅行で廃校を活用した宿泊施設に泊まったり、コンパクトシティに取り組んでいる富山市役所の方からお話を聞いたり、SDGsについて理解を深め、地域に活かそうと活動した。
	A	B	C	D								
80%	70%	60%	50%									
<p>総合的な学習の時間「みらい楽」を通して、他者との対話を重ね、様々な立場の考え方に触れながら、問題をよりよく解決するための資質・能力を育む。 ※3年生の重点評価項目 「どのようにすれば社会に貢献できるのか」という視点で取り組めたか」</p>	<p>総合的な学習の時間「みらい楽」の時間を活用し、課題解決型学習の手法を取り入れた探究学習を実施する。 [生徒の「自己評価表」で3年生の重点評価項目において目標評価基準（B）に到達した生徒の割合]</p> <table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>100%</td> <td>90%</td> <td>80%</td> <td>70%</td> </tr> </table>	A	B	C	D	100%	90%	80%	70%	C		
A	B	C	D									
100%	90%	80%	70%									
事務部	<p>安心・安全な学校を維持し、管理を徹底する。</p>	<p>危機管理意識を持ち、危険箇所の早期発見・早期改修に努める。 [危険箇所に対する改修率]</p> <table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70%</td> <td>69～50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	50%未満	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体を見通した危険箇所を早期に発見し、概ね改修できた。また、日頃の環境整備により、危険箇所の早期発見に努めた。 ・大規模改修工事が開始され、安全安心を第一に連絡調整を心掛け、関連する工事や物品調達等について、教育庁に予算要求し執行した。 ・新型コロナウイルス感染症対策として、情報機器の調達、エアコン運用、必要物品の調達を可能な限り早期に対応を行った。今後も必要と思われる設備整備や物品調達については、予算確保ができるように、教育庁に継続して要望していく。 ・運営費予算執行は、担当者の休業や病休で代替職員での対応となったため、要望を的確に聞き取り、直ちに効果的及び効率的な執行ができなかった。物品の充実を推し
	A	B	C	D								
	90%以上	89～70%	69～50%	50%未満								
<p>学校経営方針を推進するため各分掌・教科と連携し、効果的な予算執行を行う。</p>	<p>各分掌・教科と連携を密にし、教育的効果のある予算執行を行う。学校経営を推進し本校教育に即した予算計画を立案し、確実に執行する。 [教科・分掌の予算執行満足度]</p> <table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70%</td> <td>69～50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	50%未満	C		
A	B	C	D									
90%以上	89～70%	69～50%	50%未満									
<p>丁寧、的確及び迅速な窓口業務・電話対応を行う。</p>	<p>府民との窓口になる対応を丁寧、的確及び迅速に行い、円滑な学校運営に努める。</p>	A										

					進めることを心掛け、予算の厳しい中でも執行ができるよう体制づくりが必要である。 ・窓口・電話対応は、親切丁寧、迅速及び正確に行い、円滑な学校運営に努めた。							
国語科	生徒が意欲的に思考し、表現しようと思える指導の工夫改善に努める。	既習の事項を生かした表現活動を充実させ、知識・技能の定着を図る。 [「授業中に「分かった」「できた」と思うことがよくある」の割合] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3.6以上</td> <td>3.3以上</td> <td>3.0以上</td> <td>2.9以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3.6以上	3.3以上	3.0以上	2.9以下	B	B ・ 単元ごとに、単元で学習した知識・技能を活用して、表現活動に取り組みさせた。生徒に意欲的に取り組ませることができたが、新指導要領の下で、活動状況・態度や作品の評価の仕方をどうしていくかについては、更に研究が必要である。 ・ 小テストは各学年で実施した。3年生の授業では、高校での学習内容にも関連させて、授業を進めた。
	A	B	C	D								
3.6以上	3.3以上	3.0以上	2.9以下									
言語文化に対する関心を深め、基本的な語彙力の育成を図る。	単元の中で重点的に扱う指導事項を検討し、意欲を高める言語活動を設定する。小テストなどを活用して、家庭学習の方法を改善させる。 [「授業に意欲的に取り組んでいる」の割合] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3.6以上</td> <td>3.3以上</td> <td>3.0以上</td> <td>2.9以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3.6以上	3.3以上	3.0以上	2.9以下	B		
A	B	C	D									
3.6以上	3.3以上	3.0以上	2.9以下									
社会科	社会的事象に対する関心・意欲を高め、生きて働く知識・技能を習得させる。	授業の中でICTを効果的に活用し、指導方法の改善を図りながら、学力向上につなげていく。習得した知識・技能が生きて働く力となるように、活用の場面を適切に設定していく。 [授業アンケートの中の「授業中に「分かった」「できた」と思うことがよくある」に対する生徒の自己評価の平均] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3.6以上</td> <td>3.0～3.5</td> <td>2.5～2.9</td> <td>2.4以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3.6以上	3.0～3.5	2.5～2.9	2.4以下	A	A ・電子黒板やタブレットを活用して、写真や資料の提示し、生徒の気づきや疑問を出し合うことで、課題意識を醸成し、共有することができた。またロイロノートを活用し、意見集約やアンケート等双方向のやりとりを積極的に行って、授業に生かした。 ・新聞スクラップや新聞投書への取り組みを通して、学習したい内容を表現する機会を多くした。 ・全ての単元・授業で学習課題を設定して授業を展開し、社会的事象の意味や意義特色や相互の関連を考察したり、話し合ったりし、解決に向けて選択・判断する機会を設けた。
	A	B	C	D								
3.6以上	3.0～3.5	2.5～2.9	2.4以下									
生徒が「見方・考え方」を働かせる機会を適切に設定し、思考力・判断力・表現力を高める。	様々な課題（グローバルな課題から地域課題まで）を主体的・協働的に発見・解決するための学習機会を設ける。 [課題解決型授業の実施回数] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>10回以上</td> <td>9～7回</td> <td>6～5回</td> <td>4回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	10回以上	9～7回	6～5回	4回以下	A		
A	B	C	D									
10回以上	9～7回	6～5回	4回以下									
数学科	主体的な態度で学習に励む生徒を育成し、社会の変化に対応できる学力を養成する。	学ぶことやわかることが楽しいと感じられるように、主体的に考えられる機会を大切に授業を展開する。			・数学科アンケートの結果は、数学が好きと回答する生徒は全体の70.0%、数学を学ぶことが楽しいと回答する生徒は全体の87.0%で							

		[学ぶことやわかることが楽しいと感じる生徒の割合] <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>50%以上</td><td>30%~50%</td><td>10%~30%</td><td>10%以下</td></tr> </table>	A	B	C	D	50%以上	30%~50%	10%~30%	10%以下	A	
A	B	C	D									
50%以上	30%~50%	10%~30%	10%以下									
	学習意欲を高める指導の工夫と改善を推進する。	I C Tの活用についての交流を図る。 <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>図れた</td><td>まあまあ図れた。</td><td>あまり図れなかった。</td><td>図れなかった。</td></tr> </table>	A	B	C	D	図れた	まあまあ図れた。	あまり図れなかった。	図れなかった。	A	A あつた。授業では、自分の考えと他人の考えを共有する時間を多くとることで、多様な考え方を知り学ぶことの楽しさを実感できることに繋がったと考える。また、数学が嫌いという回答した生徒の多くが授業内容は難しいと感じているため、苦手意識を克服できるような手立てが必要である。 ・年間を通して、授業で効果的なプリントの作成や、デジタル教科書、電子黒板、ロイロノートの使い方を考え、実践しながら交流を図れた。
A	B	C	D									
図れた	まあまあ図れた。	あまり図れなかった。	図れなかった。									
理科	質の高い学力の定着を図るための集団づくり・環境づくりに努める。	学習の達成度を的確に把握して評価を行う。また、生徒相互の討議や教え合い学習など生徒自らが学ぶ授業づくりに努める。 観察や実験などを小グループで行い、すべての生徒が学習活動に参加しやすい条件づくりに努める。 [グループ学習等を取り入れた授業の実施回数] <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>週2以上</td><td>週1以上</td><td>月2以上</td><td>月1以下</td></tr> </table>	A	B	C	D	週2以上	週1以上	月2以上	月1以下	A	A ・感染症対策を行い、個人や少人数での実験を実施した。ペアやグループなど生徒同士が意見を交え、学び合う機会も多くし、学習に参加しやすい条件づくりに努めることができた。 また、電子黒板の利用や、タブレットのロイロノートを活用して、動画の視聴などの課題のやりとりを行うことができた。 その結果、理科の学習が好きな生徒も割合も多く、興味・関心を高く持たせながら、学習に取り組みさせることができています。 今後も、さらに興味・関心を持たせ、深く学べる授業を行いたい。
A	B	C	D									
週2以上	週1以上	月2以上	月1以下									
	中高6年間を見通しながら、生徒の興味、関心、意欲を高め、主体的に学ぶ態度を育成する。	高校で使用する教材・教具の活用に加え、I C T等も活用しながら、観察・実験を多く取り入れた授業を積極的に行い、理科への興味・関心を高める。 [理科の学習が「好き」または「まあ好き」の割合] <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>90%以上</td><td>89~70%</td><td>69~50%</td><td>50%未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89~70%	69~50%	50%未満	A	
A	B	C	D									
90%以上	89~70%	69~50%	50%未満									
音楽科	器楽・歌唱の演奏能力の向上を図るとともに、創作、鑑賞の知識やその基礎力の充実を目指す。	少人数でのアンサンブル、または全員での合唱・合奏を含めた授業内での発表の機会 <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>5回</td><td>4~3回</td><td>2回</td><td>1回</td></tr> </table> 意欲を持って創作に取り組み、作品を作ったり演奏したりできるように、楽曲の背景を理解し鑑賞する。	A	B	C	D	5回	4~3回	2回	1回	B B	B ・合唱・合奏についてはコロナ流行のため換気に注意して生徒間を広く設定し、発声をセーブしながら実施した。 ・鑑賞教材ごとに鑑賞を実施し、楽曲の背景が理解できるようにした。今後、創作の力を付けるよう取り組んでいく。
A	B	C	D									
5回	4~3回	2回	1回									

		<table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>5曲以上</td><td>4～3曲</td><td>2曲</td><td>1曲</td></tr> </table>				A	B	C	D	5曲以上	4～3曲	2曲	1曲		
A	B	C	D												
5曲以上	4～3曲	2曲	1曲												
美術科	「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行い、思考力、判断力、表現力を育成するため、ICTを活用した授業改善を推進する。	「表現」の題材導入時や制作中に、その題材に関連する作品を鑑賞する時間を設け、発想力や構想する能力の向上を目指す。 [ICTを活用した授業数] <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>15回以上</td><td>14～10回</td><td>9～6回</td><td>5回以下</td></tr> </table>		A	B	C	D	15回以上	14～10回	9～6回	5回以下	C	B	・3学年とも題材の導入時は400号の教室や図書室でICTを活用した授業を行った。制作中は、美術室にモニター機材がなく、iPadの活用を試みたが、制作中の生徒にiPadを操作をさせることは難しい場面が多く、制作の時間に使用することがは難しかった。来年度は制作中も活用できるよう考えていきたい。 ・本年度も高精細複製品の屏風を借用し鑑賞することができた。またiPadの導入によりロイロノートを使用して鑑賞活動にも取り組んだ。口頭での発表に比べ時間がかかる点を改善できるよう工夫が必要である。	
	A	B	C	D											
15回以上	14～10回	9～6回	5回以下												
作品のよさや美しさを鑑賞する喜びを味わうようにするとともに、「感じ取る力」や「思考力」「言葉による表現力」を育成する。	対話型鑑賞等いろいろな方法での鑑賞を行い、「見方、感じ方を深める学習」を行う。 [鑑賞の授業回数] <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>6回</td><td>5回</td><td>4回</td><td>3回</td></tr> </table>		A	B	C	D	6回	5回	4回	3回	A				
A	B	C	D												
6回	5回	4回	3回												
保健体育科	<体力の向上を図る> 本校生徒の体力は、京都府平均を下回る種目があるため、体育授業および体育的行事により体力の向上を目指す。	年間を通して体力向上をねらいとし、補強運動やトレーニング的な活動及びストレッチや柔軟運動を意識した授業を推進する。 [2学期以降の授業内にスポーツテストを行い、4月の測定時から総合点が上昇した人数の割合] <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>70%以上</td><td>60～69%</td><td>50～59%</td><td>0%～49%</td></tr> </table>		A	B	C	D	70%以上	60～69%	50～59%	0%～49%	B	A	男女で上昇した人数の割合は63%にとどまった。男子だけで見ると76%上昇していたが、女子が50%と伸び悩んだ。感染症対策などで活動内容が制限されたりもしたので、個人でできるトレーニングをより活用していく必要がある。 体育の授業前2件、授業中2件、部活動中1件の合計5件となった。怪我の件数としては少なかったが、授業前に生徒が自主練習をして怪我をすることがあったので、休み時間の使い方や安全管理に気を付ける必要がある。 合計5回府大会への出場があったが、いずれも陸上競技部によるものだったため、チームスポーツ	
	A	B	C	D											
	70%以上	60～69%	50～59%	0%～49%											
<健康・安全教育の推進> 体育及び体育的行事の事故防止を図る。	体育・保健の授業を通して、自らの健康と安全に対する意識の向上を図る。 [1年間の事故件数（通院を伴うもの）] <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>0～5件</td><td>6～10件</td><td>11～15件</td><td>20件以上</td></tr> </table>		A	B	C	D	0～5件	6～10件	11～15件	20件以上	A				
A	B	C	D												
0～5件	6～10件	11～15件	20件以上												
<運動部活動の活性化> 運動部への加入を推進し、質の高い集団づくりを目指す。	練習会や大会、公式戦などさまざまな環境で活動する機会を増やすとともに競技レベルの向上を図る。		A												

		[府大会への出場回数] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>4回以上</td> <td>3回</td> <td>2回</td> <td>0~1回</td> </tr> </table>	A	B	C	D	4回以上	3回	2回	0~1回		などでも上位大会に出場できるように全体の競技レベルを上げていく必要がある。	
A	B	C	D										
4回以上	3回	2回	0~1回										
技術・家庭科	生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、より良い生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する能力資質を育む。(生活と技術についての基礎的な理解とそれらに係る技能を身に付けさせる。)	生徒に身に付けさせたい課題に関する観点と尺度を明確にした学習到達度と評価基準を作成(ルーブリック)し、技能の習得に生かす。 [実習に関する課題のルーブリック作成割合] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89%~70%</td> <td>69%~50%</td> <td>49%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89%~70%	69%~50%	49%以下	C	C	<ul style="list-style-type: none"> パフォーマンステストでは、ルーブリックを示すことができた。そのため、生徒の学ぶ意欲や実習に取り組む態度に反映することができた。一方で生徒の能力を把握できていない時期には事前にルーブリックを示すことができなかった。 今後は事前に示せるよう情報を蓄積していく必要がある。
A	B	C	D										
90%以上	89%~70%	69%~50%	49%以下										
英語科	中高6年間を見通して、英語4技能5領域を総合的に育成する学習指導を行い、情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするなど、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	AETや電子黒板等を活用し、英語で授業を行うことを通して、自分の考えや気持ちを伝え合うコミュニケーション活動の場を展開する。 [2学期授業評価アンケート「授業中に『分かった』『できた』』と思うことがよくある」の割合] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3.6以上</td> <td>3.5~3.2</td> <td>3.1~2.8</td> <td>2.8未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3.6以上	3.5~3.2	3.1~2.8	2.8未満	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の授業評価アンケートで、「授業中に『わかった』『できた』』と思うことがよくある」に関わる評価を行い、各学年の平均が4点満点中3.47点であった。今後もAETやICT機器を活用しながら、英語4技能5領域を総合的に育成し、他者を尊重する豊かな人間性を育む指導を目指し、授業改善を図っていく。 生徒が主体的に家庭学習に取り組む態度を育てる取組の1つとして、英語技能検定の受検を奨励した。年間を通して3回校内で実施し、受検者数(延べ数)は65名であった。今後も英語技能検定を活用し、英語科教育を推進していく。
A	B	C	D										
3.6以上	3.5~3.2	3.1~2.8	2.8未満										
	実践的な言語能力の獲得に励む生徒を育成する。	英語の主体的な学習態度の育成のため、実用英語技能検定の受検を奨励し、合格に向けた指導を行う。 [実用英語技能検定受検者数(計3回の延べ受検者数)] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>60人以上</td> <td>50人以上</td> <td>40人以上</td> <td>39人以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	60人以上	50人以上	40人以上	39人以下	A		
A	B	C	D										
60人以上	50人以上	40人以上	39人以下										
道徳	道徳の授業を中心に、自分自身を見つめ、人間としての生き方や周りの仲間や社会との関わりについて考え、表現する経験を積ませる。	自分自身や自らの属する集団について考え、表現する経験を重ねることで、より良い環境を自ら作っているようにする。 [学校評価アンケートにおける、自らの属する集団や自分自身についての、肯定的な評価の割合] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>95%以上</td> <td>90%以上</td> <td>85%以上</td> <td>85%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	95%以上	90%以上	85%以上	85%未満	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎週の道徳の授業は、教科書の教材を使って進めた。新指導要領のもとで新たに加わった教材の活用など、職員室で授業後などに振り返ることもできた。授業では交流の時間をとり、考えを深めさせた。 また、各学年で、自分自身や自らの属する集団について考え、ど
A	B	C	D										
95%以上	90%以上	85%以上	85%未満										

	<p>新しい学習指導要領のもと、教科書を用いて、年間の道徳の授業と評価が円滑に行われるようにする。</p>	<p>担任教師と道徳担当が連携し、指導と評価が円滑に行われるようにする。 [授業内容や評価についての情報交流]</p> <table border="1" data-bbox="853 209 1413 272"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>25回以上</td> <td>25～20回</td> <td>20～15回</td> <td>15回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	25回以上	25～20回	20～15回	15回以下	B	<p>のような学級や学校にしていくかを表現・交流させる実践を行った。</p>
A	B	C	D									
25回以上	25～20回	20～15回	15回以下									

<p>学校関係者評価委員会による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携をしている中で、地域の広がりを感じた。その中で、コミュニティスクールとして学校を応援しているメンバーの視点を入れ、それを巻き込んだ活動をして欲しい。 ・福知山高校、分校、附属中学校それぞれ頑張っているの、例えば普通科と文理科、附属中と三和分校など、活発な共同関係ができたらと感じた。 ・ICTを活用して、直接会えなくてもタブレットで会話ができるので、なかなか行くことができない施設をつなぎ、授業や活動している様子を見てもらうとよい。また、職業体験ができなかったが、地元とつなぐ方法として、ICTを地元企業を知ったり、現場を見たり、ものづくりの工程をライブで見せ疑問点を質問したりするといったことが考えられる。ただし、肖像権や著作権等、情報リテラシーについては生徒にきちんと指導しておく必要がある。 ・学校評価アンケートで福高コラボの項目で肯定的な割合が低い。原因としてコロナ禍の影響だと考えられるが、他の要因も関係していないのか考慮しながら繋がれる方策を考えていって欲しい。
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活を通して人権意識や規範意識、思いやりの心を育み、健やかな身体と豊かな人間性を育成していく。 ・学校組織の改善と見直しの視点から学校全体の教育力向上に向け、教職員の資質・能力の向上を通じて業務改善と効率化を図っていく。 ・中高一貫教育の推進のため、中高間及び分掌間の連携を図るとともに、中高一体となった校内組織を確立する。 ・ICTを効果的に活用した授業改善を推進していくとともに、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業展開をし、思考力、判断力、表現力を育成していく。 ・総合的な学習の時間「みらい楽」や体験活動を通じて、社会や地域の課題解決に主体的に取り組む姿勢を身に付けるとともに、社会貢献といった経験を通じて自己肯定感を高めていけるようにする。 ・高校生との関わりから刺激を受け、様々な学びを通じて成長できるような「福高コラボ」を一層推進していく。 ・適正な学校運営及び学校防災や感染症対応など危機管理体制を確立し、安心・安全な学校作りを推進していく。 ・家庭・地域・関係機関との連携強化及び地域連携活動等の活発化を通じて、相互との信頼関係を築いていく。